

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

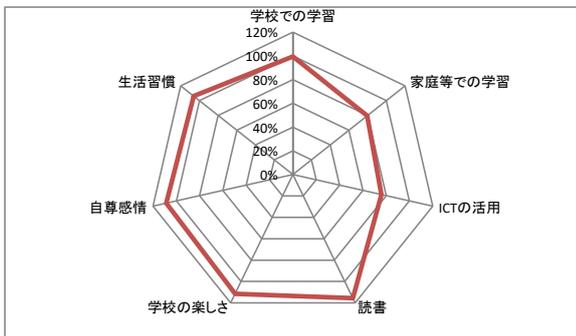
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・【話すこと・聞くこと】において全国平均正答率を上回る問題があった。【読むこと】においても、全国平均正答率との開きは低い。しかし、【書くこと】においては全国平均正答率を大きく下回る問題があるなど、開きが大きかった。 ・問われたことに対して解答しない無解答率は少ないが、漢字や仮名の大きさ、配当に注意して書くことに関して、無解答率が若干高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	【話すこと・聞くこと】において、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える	
	努力が必要な問題	【書くこと】において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	
算数	全体的な傾向や特徴など	・【数と計算】【図形】【変化と関係】【データの活用】において全国平均正答率を下回っている。特に、【図形】【データの活用】において開きが大きい。 ・問われたことに対して解答しない無解答率は少ないが、示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できることに関して無解答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	【数と計算】において、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	
	努力が必要な問題	【図形】において、示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	
理科	全体的な傾向や特徴など	・【エネルギー】【粒子】【生命】【地球】において全国平均正答率を下回っている。特に、【粒子】において開きが大きい。 ・問われたことに対して解答しない無解答率は低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	【生命を柱とする領域】において、観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	
	努力が必要な問題	【粒子を柱とする領域】において、メスシリンダーという器具を理解している	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・【読書】【学校の楽しさ】【自尊感情】【生活習慣】に関する項目が全国よりも高かった。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「朝食を毎日食べている」で解答した児童の割合が100だった。</p> <p>・【家庭等での学習】【ICTの活用】に関する項目について、「している」「使っている」といった肯定的回答率が高くなかった。「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の値が特に低かった。「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の値も特に低かった。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・授業にICTを活用した学習を進めていく。その中で、ICT機器を活用するよさを経験できるようにする。
- ・算数科では図形の領域、国語科では書くことの領域において重点的な取組を進める。
- ・読書活動は今後とも継続して進めていくようにしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・生活習慣等は今後とも学級担任をはじめ、養護教諭や委員会活動と連携を図り、取り組んでいく。
- ・学校通信や学年学級通信等を通じて、保護者、地域の方に家庭学習の啓発を行っていく。